

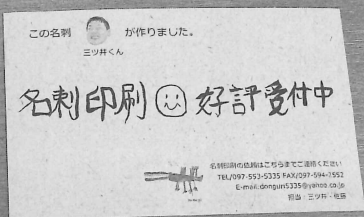
大分市の障害福祉事業所「どんぐりの家」

名刺作成 活用して

【大分】大分市牧の社会福祉法人樫の木が運営する障害福祉サービス事業所「どんぐりの家」で、利用者が請け負う名刺作成の受注が落ち込んでいる。新型コロナウイルスの影響を受け、月平均の件数は前年度から40件減の150件になった。事業所は「障害者の収入になるだけでなく、自分が社会で必要とされているというやりがいにつながっている。もっと活用してほしい」と呼び掛けている。



④パソコンで名刺を作る利用者⑤どんぐりの家の利用者が作った名刺の見本。右は職員用で、裏面に製作者の顔写真などを印刷している＝大分市牧



コロナ影響、受注が減少

名刺作りはコミュニケーションの手段となるパソコンを仕事に生かそうと、1997年の設立当初から続けている。現在は身体などに障害のある10〜40代の男性3人、女性1人が月々金曜日に作業。1日4時間、パソコンに向かっている。

県や保育園、飲食店など市内を中心に注文があり、「早い納期が売り」という。利用者は「納品に連れて行ってもらった時、相手から『ありがとう』『早いね』という反応があった」「字の大きさや間隔など、見やすさを心掛けています。生き生きと作業に取り組んでいます。

昨年春以降は新型コロナウイルスの感染拡大でブレイキがかかった。顧客も在宅ワークが増え、人と会う機会が減ったのが要因とみている。

どんぐりの家は職員の名刺の裏面に利用者が書いた「名刺印刷 好評受付中」のメッセージ、製作者の顔写真を印刷してPRしている。

管理者兼サービス管理責任者の広石嘉智さん(46)は「障害者が自分たちで作業の組み立てや割り振りをしている。注文が増えれば、頑張ろうという張り合いになる」と話している。(坂本陽子)

料金は片面の白黒印刷が100枚当たり13000円から、カラー印刷は15000円から。問い合わせはどんぐりの家(0977・5533・533)。(5)